

子ども学専攻・修士課程

教育理念・目標

教育や保育、子ども支援の職に対する使命感、責任感、教育的愛情、倫理観に裏付けられた専門職として現代社会のニーズに対応する高度で専門的な教育力を持つ人材を育成する。すなわち、子ども学を根幹に、生涯にわたる人間教育を視野に入れた子どもの育ちと教育・保育・支援のあり方についての科学的理解に基づき、理論と実践を統合的に身につけた教育者・保育者・支援者を養成することを教育理念・目標として定める。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

子ども学専攻は、本専攻の教育理念・目標に掲げる、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（子ども学）の学位を授与する。

身に付けるべき能力

1. 高度な実践力をもった専門的職業人として、自己の使命と責任を自覚し、生涯にわたって自律的に社会に貢献する力を有している。
2. 子ども学専攻の所定の科目を学修し、子ども学及び教育・保育・支援の専門分野における高度な専門的知識を修得している。
3. 研究活動を通して、子どもの教育・保育・支援に関する幅広い学識を身につけ、様々な子どもをめぐる現代的諸課題に対する対応策を適切に考える能力を修得している。
4. 研究活動を通して、子どもの教育・保育・支援にかかわる高い技能と豊かな表現力を身に付け、高度な実践力をもって教育等の活動に取り組む資質・能力を有している。
5. 子どもの教育・保育・支援にかかわる高度な専門的職業人としての視点を持ち、必要に応じて他の専門領域実践者との連携を図りながら、地域の一員として寄与する能力を有している。

【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

教育課程編成の方針

子ども学専攻は、保育・教育の質的高度化に資する専門的な知識と技能について研究し、現場での実践に応用する能力を育成するよう適切に科目を配置する。

1. 本専攻では、「基幹分野」に子ども研究の基盤を学ぶ「子ども学特論」を配置し、必修科目とする。また、幼児期の子どもの生活支援と教育のあり方を学ぶ「子ども学実践演習Ⅰ（幼児期）」、児童期の子どもの生活支援と教育のあり方を学ぶ「子ども学実践演習Ⅱ（児童期）」を「基幹分野」に配置して選択必修とする。
2. 選択科目として、子どもの教育や生活支援の方法を個別的観点から考究する科目を、「教育分野」「教科・領域分野」「支援分野」に区分して配置する。
3. 小学校教諭専修免許状および幼稚園教諭専修免許状を取得できる課程を設け、教育学・心理学の基礎理論を深化して各教科・領域の指導法を開発するとともに、教育現場の今日的課題に対応しうる高度な応用力、課題解決能力を育成する科目を配置する。

教育課程運営の方針

本専攻では、上記1で明記した3科目を「基幹分野」とし、「教育分野」「教科・領域分野」「支援分野」の各分野から、学生の目的意識に即して、最低1科目、合計7科目を選択して履修することを、履修モデル等で明示している。

【入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）】

本専攻は、入学選抜に当たって、以下の要件のいずれかを満たすものを積極的に受け入れる。

1. 子ども学系、教育系、保育系の学部・学科において専門教育を受け、さらに高度な専門職としての資質・能力を向上させることを希望する者。
2. 小学校、幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設、子育て支援施設等で子どもの教育・保育・支援に従事した経験があり、さらにその専門職としての資質・能力を深化させることを通して学校等や地域社会において主体的に貢献したいと希望する者。
3. 子どもの教育・保育・支援、あるいは子どもと子育てに関する研究や実践活動に関心がある者。